



ちぐさ東洋クリニック

宮崎市千草町 3-3
Tel 0985-82-8000
Fax 0985-82-8001

診察時間

月 9:00-13:00 / 14:00-18:00
火 9:00-13:00 / 14:00-18:00
水 14:00-19:00
木 9:00-13:00 / 14:00-18:00
金 9:00-13:00 / 14:00-18:00
土 8:30-13:00

当院は予約優先外来です。2つの予約方法があります。

通常予約(これまでの予約)

30分単位での予約です。9時予約の方は、9:00 から 9:29 までに開始。
30分に4人分の予約枠があります。その中で当日の受付順にお呼びします。
急患等でお待たせすることがあります。

完全予約枠を設けています(選定療養による予約)

診療開始時刻を予約できます。受付順番に関係なく予約時間に診察開始します。
予約料金として 1500 円申し受けます。

意外かも知れませんが・・・漢方にも副作用があります。
より安全に漢方を使用する専門医の治療を強く勧めます。

毎回診察前に行う検査

血圧・脈拍・・・漢方薬で血圧上昇・むくみを来すことがあります。
酸素分圧測定・・・危険な副作用の間質性肺炎を予見するために検査します。

3ヶ月ごとの検査をお勧めします。

採血(貧血・肝機能障害・電解質異常・脂質代謝異常・CPK 値)
漢方薬で肝機能異常・電解質異常を来すことがあります。

6ヶ月～1年毎の検査をお勧めします。

胸写・呼吸機能・・・間質性肺炎の発生を予見するため
血管年齢検査・・・冷え症の原因検索・動脈硬化の検討

病態別

かゆみ・咳など	アレルギー体質の有無・アレルギーの特定
冷え症の方	冷えの原因が他にないか？ 甲状腺・動脈硬化等
副作用予防	間質性肺炎を来す病態が存在していないか
不妊症	冷えの有無・ホルモンバランス

からだに優しい漢方生活入門

ようこそ

少し上質な健康の世界へ

当院は漢方専門医による漢方診療と標準的西洋医学を統合した統合医療施設として、平成21年3月に千草町に開院しました。開院以来、多くの患者様に御来院いただき大変感謝しています。皆様のご期待に添うことが出来ますように、スタッフ一同今後とも努力して参ります。

開院3周年が過ぎ、これまでの診療に加えて、当院でしかできない様々なご要望に応じて、漢方治療の基本である養生思想の教育に重点的に力を注ぎます。

今後とも当院の医療展開について、ご注目いただくとともにご指導ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

ちぐさ東洋クリニック
院長 川越宏文

目次

ご挨拶・当院の治療コンセプト P.1

漢方治療中の食事について P.2

お得情報 院長プロフィール P.3

診療時間 当院での検査の目的 P.4

当院の治療コンセプト

1. 漢方医学と西洋医学の良い面を最大限に引き出す医療をめざします。
2. 出来るだけカラダに優しいお薬を最小限で処方します。
3. 治療効果判定・副作用予防のため、客観的な評価を用います。
4. 当クリニックはそれ自体が一つの治癒のための場をめざします。
5. 心・カラダ・社会そして魂の健康をめざします。

漢方が得意とする病気・病態について

- 胃腸障害(腹痛、下痢、便秘) 慢性肝炎
- アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎、喘息、花粉症、蕁麻疹など)
- 不妊症、習慣性流産などの産科疾患
- 月経不順、月経痛、冷え症、更年期障害などの婦人科疾患
- 心身症、自律神経障害、神経症など
- 高齢者の老化に伴う種々の症状(前立腺肥大、しびれ、膝痛など)
- 高血圧、糖尿病など生活習慣病
- 風邪をひきやすい、おなかを痛がるなどの虚弱児童
- 癌や膠原病などに伴う様々な体の不調や体力低下

内科診療として、高血圧・糖尿病・脂質代謝異常の生活習慣病
不整脈・狭心症などの循環器疾患、急性上気道炎・インフルエンザ・
感染性腸炎などの感染症、関節リウマチを代表とする膠原病、痛風発
作などを起こす高尿酸血症などの検査治療も得意としています。

治療期間について

漢方診療は体質改善にまで踏み込む必要があります。治療開始から終了までの期間はひとそれぞれですが、概ね半年～1年を1つの区切りとして考えています。

数回の診察では結論が出せないのがこの治療の特徴です。根気強く治療に立ち向かっていただくことをお願いいたします。

漢方専門医は、
舌・脈・おなかで
何を診るのか

漢方が成立した時代には現在医師が用いているような検査機器や発達していませんでした。そのため、漢方医学による診察は、医師はすべての五感を駆使することによって診断を行っていました。

【望診】
顔色、皮膚の色その他、舌を診る舌診も
【聞診】
声の大きさ、におい
【問診】
現病歴・既往歴
患者の体質傾向
【切診】
脈やお腹を触れ抵抗感や圧痛の有無などで判断します。

漢方では、一見関係なさそうな部分の所見や自覚症状が診断の決め手になります。そのため、診察の時に、腹部を触れたり、脈を診たりします。

脈やおなかで体全体の傾向、バランスの歪みを判断します。

漢方が「病を診ずして人を診る」医学であるからです。



漢方治療中の 食事の注意

間違った食養生は
かえって病状を進めます。

～漢方治療を受ける方の食事上の注意～

- ・食べたくない時は食べない。
- ・よく噛み、量は少なめに。腹7、8分目で。
- ・動きに応じた量を取る。余り動かない日は、少なめに。
- ・なるべく季節のものを食べる。
- ・野菜、海草（昆布、わかめ、ひじき）、胡麻、大豆製品（豆腐、おから、ゆば、高野豆腐）など、アルカリ性食品を努めて食べる。野菜には、火を通し「おひたし」や「煮付け」にして温めて食べる。
- ・小魚、煮干、ごまめ、魚の干物などは、まるごと食べる。
- ・油は、植物性（ごま油など）のものを使いましょう。
- ・肉類、卵、ハム、ソーセージ、バター、白砂糖、白米など、酸性食品は、食べ過ぎない。
- ・体の弱っている人は、なるべく生ものや体を冷やす食品を控える。
- ・甘いもの、果物、生野菜、清涼飲料水、アイスクリーム、刺身などは体を冷やすので、なるべく食べない。
- ・加工食品、色付食品、インスタント食品などの、添加物が入っているものはなるべく避けましょう。
- ・バランスよく、色々な物をとるようにしましょう。

当院の最新情報・漢方情報・予約速報は
インターネットから手に入ります。

ホームページ 「ちぐさ東洋」で検索
<http://chigusatoyo.web.fc2.com/index.html>

院長ブログ 「漢方 脱ブタボ」
<http://happy.ap.teacup.com/kampo/>

漢方ナビ 「漢方ナビ」で検索
<http://www.kamponavi.com/>
クラシエ薬品の市民向けページ、監修は院長です。

日本東洋医学会 院長が編集責任者です
<http://www.isom.or.jp/universally/index.html>

院長のプロフィール

川越宏文（かわごえひろふみ）医学博士・医師
昭和63年 久留米大学卒業
同年6月 宮崎医大第1内科にて内科の初期研修
古賀総合病院・江南病院・西都救急病院
三股町立病院に大学より派遣
平成6年 東京女子医科大学付属東洋医学研究所
スタッフとして、漢方医学の臨床研究と教育を行う
医局長・講師となり、後進指導を行う。
平成15年 九州の医療レベル向上をめざし宮崎に戻る。
大学の外来のため、3年間は東京と2回/月往復

日本東洋医学会の役職 現在 代議員・広報担当委員・専門医
経歴 東京都部会副会長・専門医師試験問題作成・特別編集委員

頻用漢方薬講座

抑肝散加陳皮半夏
KB-83

最近、認知症の周辺症状に用いられ有名になった処方です。認知症の周辺症状とは認知症に伴って起こる介護への抵抗や暴力等の症状で介護に当たる方の精神的な疲労の元となっている症状です。この処方はずっと小児の夜泣きという適応でしたが、認知症はもちろん、私は様々な方にこの処方を用いて効果を得ています。

例えば、アトピー性皮膚炎で夜眠れないという方、電車に乗るとお腹が痛くなってしまおうという方、家を出るときに鍵をかけたか、電気を消したかが気になって外に出られないという方、不眠、そして様々な不安から生じる症状にこの処方を用いています。不安症状にはこの処方の他、加味帰脾湯、香蘇散、甘麦大棗湯、四逆湯などを用いています。